

町では、千年以上育まれてきた国見の歴史・伝統・文化をこれから百年後に伝えていくため、これらを生かした「歴史まちづくり」の取り組みを進めています。町や地域が行うこの取り組みについて、毎月お伝えしていきます。

【歴史まちづくり推進室 ☎ 585-2967】
【あつかし歴史館 ☎ 585-4520】



あつかし歴史館で今年もこどもの日イベント開催！ ～こいのぼりと手作りワークショップ～

5月5日に、あつかし歴史館で「大木戸歴史むらづくりの会×あつかし歴史館～遊びと学びのミュージアム～『こいのぼりと手作りワークショップ』」を開催し、約200人が来場しました。

午前中はあいにくの雨や曇り空でしたが、昼頃には青空が広がり、地域の方々から提供いただいた約80本のこいのぼりが大木戸の空を泳ぐ中、子どもたちは元気いっぱい校庭を駆け回っていました。



▲こいのぼりの下でチャンバラ阿津賀志合戦！

来場した子どもたちは、やくよ 厄除けや子どもの成長を願うしょうぶ湯の足湯や、笹巻(ちまき)作り、新聞紙での兜作りなど、端午の節句にちなんだ行事を体験しました。

笹巻は、この地域の家庭でよく作られる三角形の形で、もち米を蒸し、きな粉をつけてみんなでいただきました。

そのほかにも、「国見石のピザ窯」を使用した手作りピザのトッピング体験や、古墳時代と同じ作り方で、粘土で『はにわ』を作る体験など、さまざまなワークショップを楽しみました。

今年で2年目となる当イベント。今年もかつての学び舎に、たくさんの子どもの笑顔が集いました。



▲笹巻づくりに挑戦！



▲足湯でリラックス♪



▲『はにわ』作りは難しい！

歴史まちづくり法10周年記念シンポジウム

阿津賀志山防塁 歴史公園整備事業説明会

申込み不要！

～後世に伝えたい阿津賀志山防塁～

日時 6月16日(日) 午後1時30分から

場所 国見東部高齢者活性化センター (西大枝字王壇前16-1)

内容 ①整備事業に係るこれまでの経緯・取り組みについて

②阿津賀志山防塁整備基本計画・下二重堀地区計画(案)について

③現地ワークショップ

※公用車にて下二重堀地区に案内します 動きやすい服装でお越しください



多くの方に歴史を体感していただくため、下二重堀地区を歴史公園として整備します。町の歴史観光と周遊づくりについて、一緒に考えてみませんか？

国見町郷土史研究会 会報を発行

～国見往来の著名人を特集～

国見町郷土史研究会(中村洋平会長)が、会報「郷土の研究」第48号を発行しました。

今号では、国見峠や小坂峠を往来したとされる奈良時代から現代までの著名人35人を特集しており、坂之上田村麻呂や源義経、松尾芭蕉らの往来した理由や作品を、史料などに基き紹介しています。



平成30年 春の叙勲

「改めてこれまでの30余年を振り返ると、「心残り」に思う部分が大いあります。自分では一杯やってきたつもりでも、いざ、自分がお世話をしてきた方が亡くなったとき、「何かやり残したことがあったのでは」、「私はこの方の望みに応えることができたのかな」と…。斎藤さんは、無我夢中で駆け抜けた32年間を謙虚に振り返ります。

一方で、斎藤さんにとってもうれしかった出来事も。「認知症を患っていた方が家に帰れなくなると警察に保護されたとき、私の自宅に「迎えに来てもらえませんか」と連絡があったんです。自分の家は思い出せなくても、私のことはちゃんと覚えてくれたんだなと」。

地域を見守り続けて30年

瑞宝単光章

民生児童委員

斎藤 洋子さん (山崎)



自身の苦労よりも、自分を頼りにしてくれたことをうれしそうに語りました。

斎藤さんは、「みんなを支え合っていきたい」という思いから、高齢者や障がい者の一人暮らし世帯に何度も足を運び、「お変わりないですか」と声をかけながら、地道に信頼関係を築き上げてきました。今も近くで救急車のサイレン音が聞こえると、夜中でもすぐに駆けつけるといいます。

今回の受章については、「多くの方に支えていただいたから、今日まで活動を続けることができました。感謝あるのみです」と語り、「気が付けば私も高齢者。今後は焦らず、ゆつくりと自分のできることをしていけたら」と、優しくほほ笑みました。

民生児童委員の斎藤洋子さんが、平成30年春の叙勲の荣誉に輝きました。

斎藤さんは、昭和61年に民生児童委員の委嘱を受けて以来、32年間の永きにわたり地区の高齢者世帯や一人暮らし世帯を見守り続けてきました。



▲参加者全員で共同宣言

歴史まちづくり法10周年記念シンポジウムが5月11日、埼玉県川越市で開催されました。

シンポジウムには、歴史まちづくりに意欲的に取り組む全国8都市の首長がパネリストとして参加し、東北地方からは国見町が選出。太田久雄町長は、「復興」は震災前にた戻すことではなく、地域の課題解決につながる「再生まちづくり」。町の活性化には、町民が「誇り」を取り戻すことが不可欠で、郷土の歴史こそが誇りの醸成につながる」と訴えました。

【歴史まちづくり法10周年記念シンポジウム】

国見町の歴史まちづくりを全国へ発信

【東北歴史まちづくりサミット in 多賀城】

東北歴史まちづくりサミット in 多賀城が5月17日、宮城県多賀城市で開催されました。

サミットでは、「公民連携による歴史まちづくり」と題してパネルディスカッションが行われ、パネリストとして福島県からは太田久雄町長はじめ鈴木和夫白河市長、高橋宣博桑折町長が参加。太田町長は、歴史まちづくりにおける地域と連携した取り組みを紹介し、「歴史を通じて地域の活性化につなげることであれば」と期待を述べました。

▼町の取り組みを紹介する太田町長

